

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

エクアドル共和国 プンガラ地域開発プログラム
(ECU-190632)

チャイルド・ストーリー

母親のいないミカエル君。支援を受けて心身ともに健やかに成長しています

プンガラ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすミカエル君は、父親と3人の兄弟と暮らしています。母親は弟のカルロス君が幼い頃に家族の元を去り、父親は4人の子どもたちを男手ひとつで育てるという困難に直面しました。そのような状況の中、7年前にミカエル君がワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録され、子どもたちは学用品や通学バッグ、靴などの支給を受けることができるようになりました。

また、教育の重要性や子どもの権利について学び、学校では読書会や菜園での野菜作りなど、ADPの支援で始まった子どもたちのための活動に参加しています。

父親も、ADPの支援により職業訓練を受けて、現在は建築業で生計を立てています。「子どもたちが支援によって受け取ったものの中でいちばん大きかったのは、自尊心を持って、何事にも前向きに取り組む、勉強を続ける態度でした」と父親は語ります。母親がいない家庭で育つミカエル君と兄弟ですが、その絆は強く、互いに助け合う思いやりにあふれた子どもたちに成長しています。



ミカエル君(左、10歳)と弟のカルロス君。手に持っているのはおやつのマチカ(小麦粉を黒砂糖で甘く味付けしたものです)



支援を受けて父親と兄弟とともに元気に暮らしています

0～5歳を対象とした事業

「手洗い、歯磨きは忘れずにね」子どもたちの衛生指導に力を入れています

5歳未満児の親50人が衛生研修を受講



地方政府の保健局と協力し、5歳未満児を持つ親50人に対して、手洗い、うがい、歯磨きの大切さや支援地の子どもたちによく起こる急性下痢の予防法などに関する研修を行いました。家庭でこれらの衛生管理を習慣化し、幼い子どもたちの健康や命を守っていきます。



小さな頃から衛生管理を習慣化することが大切です

ブンガラ地域には、薬草を使った伝統的な治療法を知る人人(主に女性)がいますが、ADPはその知識を普及するための研修機会を設け、150人の親たちが薬草由来の石鹸やシャンプーを作る方法を学びました。



伝統的な治療法は、医療施設が不足する支援地域においては大きな助けになります

6～12歳を対象とした事業

子どもたちの識字能力向上を目指して、研修と教材を支援しました

83人の教師、886人の子どもたちに支援を届けました



ブンガラ地域では、ほぼすべての子どもたちが小学校に通うことができていますが、機能的識字能力(※)を満足に備えている子どもたち(10～12歳)の割合はまだ62%にとどまります。この状況を改善するために、ADPは支援地域内の83人の教師に対して子どもたちが楽しく効果的に読み書きを学べるよう教授法に関する研修を実施しました。886人の子どもたちには、その教授法に基づく教材が支給され、これから機能的識字率に向上が見られることが期待されます。



研修を受ける教師たち



子どもたちは真剣な眼差しで授業に臨んでいます

※機能的識字能力:単なる文字の読み書き能力を超えて、家庭、コミュニティあるいは仕事場での、ある特定の目的のために、理解をもって読み書きができること。

13～18歳を対象 とした事業

アルコールやインターネットによる悪影響から青少年を守っています

地域の学校や警察も総出で取り組んでいます



ブンガラ地域では、特に成人男性の間でアルコールの過剰摂取と、そこから派生した家庭内暴力や子どもの虐待が問題視されてきています。2014年度はADP初の試みとして、アルコール中毒や未成年による摂取といった問題に関して研修を行い、中学生、高校生とその親も含めた大人たちが参加しました。



アルコールの持つ危険性について、子どもたちに強く訴える警察官

またエクアドルでは、町に出れば簡単にインターネットに接続できるようになってきましたが、これから地元を離れ、町に出て行く可能性のある高校生にはインターネットの活用方法を教えるとともに、青少年に悪影響を与えかねないウェブサイトの存在やSNS (FacebookやTwitterなど) の使い方に対して注意喚起を行いました。



インターネットの正しい利用について学ぶ地元の高校生たち

スポンサーシップ・ マネジメント・プロ ジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

そのほか、2014年度はスポンサー・ツアーを実施し、支援者の皆さまにチャイルドと会い、エクアドルでの支援活動を直接ご覧いただく機会を持ちました。



ツアーでチャイルドと対面したチャイルド・スポンサー

ADPマネージャー インタビュー

Q.ADPでどのような仕事をしていますか。

ADPの責任者として、予算に基づいたプロジェクトの企画運営、行政や関係機関との交渉や連携、プロジェクトの報告と評価、ADPスタッフの育成と管理などを行っています。



ブンガラADPマネージャー
ホルヘ・トゥキンガ(44歳)

Q.WVで働く原動力となっているものは何ですか。

私もブンガラ地域から30分程離れた村出身の先住民族で、地域の子どもたちと同じ言語を話します。地域の子どもたちやその家族と良い関係を築き、地域の人々に共感しながら、子どもたちの教育、健康、保護、そして社会に参加する機会を提供していくこの仕事に、やりがいを感じています。

支援地域の女性の インタビュー

支援によって極貧の生活から抜け出しつつあります

Q.家族構成を教えてください。

夫と3人の子どもの5人家族です。

Q.ADPのどのような活動に参加していますか。

栄養管理、保健、男女平等についての訓練を受けました。また、クイ(食肉用モルモット)の提供を受けて飼育を始め、現金収入が増えました。チャイルドとして登録されている私の子どもは、通学バッグや靴の支援を受けました。



ADPのボランティアとして活動するマリアさん(32歳)。持っているのは昼食用のカボチャです

Q.活動に参加してどのような変化がありましたか。

子どもたちに栄養価の高い食事を食べさせ、健康を保つために、母親である私がいかに重要な役割を担っているかに気づきました。今はADPのボランティアとして、チャイルドに手紙を届けたり、保健や栄養についての情報を必要としている家庭を訪問したりしています。

会計報告

収支計算書

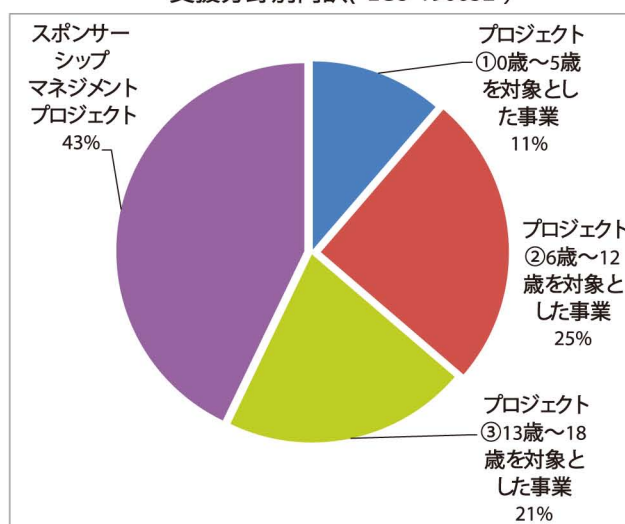
自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

プログラム支援額		ECU-190632 (単位:円)
チャイルド・スポンサーシップ		33,342,945
当期支援額		33,342,945
前期繰越金		1,433,924
プログラム支援額合計		34,776,869

プログラム支出額		
プロジェクト①0歳～5歳を対象とした事業		3,779,510
プロジェクト②6歳～12歳を対象とした事業		8,351,720
プロジェクト③13歳～18歳を対象とした事業		6,972,281
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト		14,330,172

プログラム支出額合計	33,433,683
次期繰越額	1,343,186

支援分野別内訳(ECU-190632)



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話:03-5334-5351 • Fax:03-5334-5359

email: dservice@worldvision.or.jp • ホームページ: www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。
ホームページにぜひお立ち寄りください。